

第4回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会議事概要

日時	令和元年 12 月 27 日 (金) 10 : 00 ~ 11 : 30
場所	関内駅前第一ビル 302 会議室 (教育委員会事務局会議室)
出席者	鈴木志保子委員、鈴木裕子委員、山岡委員、柴田委員、今平委員、小島委員、越井委員、室伏委員、村井委員、相坂委員、萬谷委員 (欠席者 秋好委員)
次第	1 あいさつ 2 第3回懇談会の議事概要について 3 横浜市中学校昼食に関するアンケートについて 4 令和3年度以降のハマ弁の方向性について (案) 5 その他

要旨

【2 第3回懇談会の議事概要について】

- ・事務局より議事概要について説明
- ・特に意見なし

【3 横浜市中学校昼食に関するアンケートについて】

- ・資料3-1に基づき事務局から資料説明

(主な発言要旨)

- ・アンケートの中では昼食時間に関する記述が多いようだが、学校での実際の運用はどうか。(中学校の昼食時間は、準備時間5分、喫食時間15分の学校が多く、15分を過ぎても食べ終わらない場合には、チャイムを鳴らさないよう工夫するなど、食べられる時間を確保している学校の現状を事務局より報告)
- ・中学校が工夫していても小学校の給食に比べて喫食時間は短い。女子生徒を中心として、喫食時間に合わせたお弁当を考えている様子も見られる。保護者が作ったものを残すのは申し訳ないと感じて、時間内に食べきれぬ量のお弁当を持参するようになる。ハマ弁のおかずやごはんの量が自分に合っていないと思えば、子どもは量が調節できるお弁当やおにぎりを選ぶようになるのだと思う。
- ・今回のアンケート結果は、アンケートにご協力いただいた生徒・保護者の冷静な声が反映されているものと受け止めている。

【4 令和3年度以降のハマ弁の方向性について (案)】

- ・資料4-1、資料4-2に基づき事務局から資料説明

(主な発言要旨)

- ・試食会は小学校6年生を対象に実施するのが効果的。児童がみんな一緒に試食する機会が必要だと思う。また、中学生も入学後に1年生全員で食べた方が良い。希望した学校だけではなく、全市一律が理想的。登録が面倒ということであれば現金で支払って試食してもらえれば良いのではないか。
- ・保護者向けの試食会をPTA又は学校主催で行っているが、お知らせがうまく保護者に伝わっていない。生徒が案内を保護者に渡さない、保護者自体も案内に目を通さないことなどが理由だと思われるので、行政主体の試食会をご案内するなど効果的なアプローチが必要。
- ・男子生徒からするとハマ弁のイメージがお洒落に感じるという声もある。
- ・ハマ弁のメニューが分かりにくい場所に掲示されているが学校があり、各教室に掲示することも考えたらどうか。
- ・事務局で作成した方向性 (案) は概ね良いと思う。アンケートからも生徒や保護者のニーズには応

えているので、今後も選択制で行っていくことは良いと思う。

- ハマ弁の注文決済は、他の都市の中学校給食と比べて同等もしくはそれ以上と考えている。一方で、同じメールアドレスで複数の利用登録、注文ができないこと等、注文方法には改善の余地があると思っている。登録手続きについては、4月だけでなく、複数回PRする方が良いのではないか。また、受け渡しについては、ハマ弁の注文数が多いところにはスタッフを増やしてもらうなど、配膳に時間がかからず、教職員の負担にもならないようお願いしたい。昼食時間についても、チャイムを鳴らさない工夫など、適切な昼食時間の確保に向けて、学校ごとにしっかりと考えていきたい。
- ハマ弁の方向性を検討するにあたり、校長の意見を聞き取ってきたので報告したい。
  - ①注文数が増えた場合の配膳人員が課題、学校のレイアウトに応じていろいろと方法があると考えており、スムーズな配膳・回収のノウハウを共有ができると良い。
  - ②保護者の負担軽減にハマ弁がうまく利用できることや安価であることをもっと保護者へアピールすることが必要。
  - ③現在は教職員も選択制となっているため、積極的に利用する雰囲気にはなっていない。
  - ④ハマ弁は栄養バランスがよく考えられているので、献立の活用など、具体的な食育のノウハウを蓄積していくことが中学校現場の課題。
  - ⑤当日注文は業者弁当がない学校にとっては必要不可欠なものとなっているため、今後も残していただきたい。
  - ⑥おかずが冷たい要因の一つには、学校によっては配膳を準備する時間が早いなどの課題がある。
  - ⑦就学援助等対象者への支援については今後も継続してほしい。
  - ⑧配膳については、複数箇所で行うことを考える場合、事業者が必要なスタッフを確保する方法、学校が有償ボランティアを募る方法、教職員が配膳を手伝う方法が考えられるが、できるだけ教職員の負担を軽くする方法が望ましい。
  - ⑨ハマ弁が学校給食法上の給食に位置づけられることが明確になれば、給食ということで教職員も受け入れやすくなるのではないか。
- 今後の方向性（案）について、「食育の観点からハマ弁の利用を促進する」とするのであれば、現状ではこのような問題点や課題があつて、なかなか栄養バランスの良い家庭弁当を用意することができないなど、ハマ弁の利用を進めることで課題の解決につながるというような論理展開が必要だと思う。
- 現状の説明だけでは分かりにくいので、今後の方向性（案）に至るまでの解説編に当たるものが必要だと思う。学校給食法上の給食とすることは経済的な面も含め、利用する側にとってメリットがあると思う。一方で、給食法上に位置付けると衛生管理面も大変になることは確かだが、基本的にみんなが安心して利用でき、経済的な負担も少ないものになっていければよいと思うので、それを目指すという方向性については賛成したい。
- 方向性と併せて現状では課題があり、それをどう解決していくかも示す必要があるのではないか。
- 安心できる環境が確保され、経済的に困難を抱える人への昼食環境を整えられることが最も重要なことだと思う。現状それができているので、今後は少しずつ改善をしていくフェーズに入っていると思う。
- 先程の試食会の実施方法に関する提案や、ハマ弁の日をつくりみんなで食べるとか、重点校を指定するとか、みんなにハマ弁の良さを伝え、ハマ弁を食べるような取組はやる価値があると思う。
- 今後の方向性（案）はこれで良いと思うが具体的な要素がもっと欲しい。早期実施の「早期」とはいつになるのか、ある程度の目安は必要。食育の観点からということであれば地産地消なども将来的に考えていくことも盛り込んでもらいたい。
- (注文方法や栄養バランスなど) ハマ弁に関する具体的な施策のレベルはすごく充実してきている。ただ、学校現場で取組むことを考えると今の方向性（案）は抽象的すぎるように感じる。中学校昼食の現状の課題やニーズを分析し、それだから利用を促進していくという、ハマ弁のビジョンとい

うあるべき姿を明文化することが重要。そのうえで、利用促進にあたり学校現場でどのような体制をとる必要があるのか、具体的な行動プランを打ち出した方が良い。

- アンケートの結果から、保護者・生徒の意見と教職員の意見に違いがあることも明らかになった。教職員の意見をどのように学校現場向けの施策に反映させていくのか、まだ具体性がないので、今後、教職員の意見を深堀していく必要があると思う。
- 食のプロが製造工場に行って現場を見て提案したり、地場の特色ある食材を使って、地域の魅力を紹介するような関わりもできると思う。地域の中で、中学校の給食についての意見を伝えることで、子どもたちの誇りにつなげることができると思う。
- ハマ弁は栄養バランスに優れていること、安心安全に提供されていることをもっとPRすべきだと思う。小学校給食とハマ弁の価格差がそれほどないことも発信すれば効果は大きい。
- 昼食は7、8分で食べ終わってしまう生徒もいる。食べる速度は人によって大分違うので一律に昼食時間を設定するのは難しく、食べるのが遅い子どものために残って食べる雰囲気をつくることを担当が工夫しながらやっている。1年生の夏休み前までは昼食時間（喫食時間）を20分にして配慮している。
- クラスで10人くらいがハマ弁を食べていれば、生徒側の受け止めとして「みんなが食べている」となるので、そのくらいの環境づくりを考えたい。
- 小学校の給食の提供時に個別対応が必要な児童は増加傾向にあり、教職員も相当な労力をかけている。そういった意味で、中学校昼食の選択制はきめ細かくケアできる方法なので良いと思っている。以前は、ハマ弁の献立にもおかずの選択があり、お肉とお魚から選ぶことができた。宗教上の理由から食べられないものがある生徒もいるので、自分のニーズに応じて選べるということを充実させていただけたらありがたい。
- 小学校の教職員でも、中学校の昼食時間は短いというイメージがあるが、小学校の喫食時間は身支度、給食室に取りに行く、配膳するなどの時間もあるので、実際の喫食時間は20分～25分間の学校が多い。イメージほどの大きな差ではないので、その誤解を解く努力も必要だと思う。
- 小学校のハマ弁試食（ハマ弁デー）について、給食の基準献立がない日に実施する等の制約があるので、もっと柔軟な運用にして給食の代わりに提供できると良いと思う。
- SNSを活用してハマ弁の情報を発信できると良い。小学校では給食の献立内容や食材の情報を学校栄養職員、栄養教諭が児童に説明する場面があり、児童はより一層味わって美味しく給食を食べることができている。ハマ弁においても、このように提供されたものについて理解を深めてもらう方法を検討した方が良いと思う。
- 中学校で昼食を7、8分で食べる生徒に対しては食育の観点から良く噛んで食べさせる指導が必要。最低10分は時間をかけて食べるよう指導しないといけない。将来的に生活習慣病の予備軍になりかねない。よく噛んで食べても10分以内に食べられてしまうのであれば、多分量が足りていない。小中ブロックごとに配置された栄養教諭から食育指導してもらってはどうか。
- 横浜には各地に素晴らしい食材、素材があることを子どもたちに知ってもらいたい。食育的に地産地消の視点は大切だと思う。好きなものだけを食べるのではなく、野菜も食べないといけない理由を子どもたちにきちんと伝えることで、おいしく野菜も食べられるのではないかな。